

三宅島社会福祉協議会が主催する東日本大震災の支援活動が、本格的に始まった。これは9月までに計15回、島民を宮城県南三陸町に送り、仮設住宅の支援などをするというもの。6月4日には第1回の事前研修会も行われた。

6月4日の事前研修会(右)と地震直後に南三陸町の高校に描かれたSOS(下)



島民が震災被災地を支援 社協 南三陸町にボランティアを派遣

三宅島社会福祉協議会は、宮城県南三陸町の被災者を支援するため島民ボランティアの募集を始めた。

6月4日、第1回事前研修会が村役場で開かれた。寺本社協会長は挨拶で「これまでの受ける立場から、する立場として島民の参加を」と呼びか



三宅島新報

発行所：三宅島ふさと再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

- 第23回世話人会開催
7月9日(土) 18時30分
巢鴨ルノール会議室
- 鶴吉さん「がんばろう！日本」公演
日時：7月22日(金)
17時30分
場所：松戸市民劇場
無料 みなさん、一緒に参加しましょう。
- ご寄付のお願い！新口座を開設しました。手数料は当方で負担します。

郵便振替口座
口座番号：00120-3-545036
口座名称：三宅島ふさと再生ネットワーク

【三宅島ふさとネット事務局】

郵便番号：173-0005
住所：板橋区仲宿 25-6
電話：03(3963)5678
FAX：03(3963)5697
担当：大石・加藤

けた。平野村長挨拶、東京災害ボランティアネットワーク上原泰男事務局長の現地報告と活動内容、具体的な取り組みについて桑村社協事務局長が説明した。

①受付期間 6月1日～8月31日
②活動期間 6月18日～9月30日まで現地滞在8日間、15回
③費用は村と東ボラ負担で原則無料
申込み、詳細は、三宅社協まで。

南三陸町は、地震・津波で町の7割が流失した。現地での活動は、登米市内避難所運営支援、現地災害ボラ支援、避難所での「ふれあい食事会」開催、仮設住居者支援、その他となっていて瓦礫撤去は含まれない。

富賀神社大祭 島一周神輿 8月4日より



一昨年の富賀神社大祭

王祭は自粛中止。残念ながら牛頭天神社へ。

9日は阿古から富賀
8日は神着。8
6～7日は伊豆。7
5～6日は伊ヶ谷。
最高潮となる。神輿の島内一周の日程は、8月4～5日が坪田、

夏場は里帰りも多い。今年には2年に一度の富賀神社大祭。若者が

火山ガス放出も低下、

マリンスコーレ 7月30日に開催決定



アカコッコ合唱団も参加

の限界？

は前年より1.9%減、3万8千942人。消費額は22.9%減の約4億5千万円で他の伊豆諸島より大幅ダウン。バイクなど単発イベント戦略

「マリンスコーレ」の開催日が決定。日(土) 7月30日 15時30分

日(日) 会場は鯖ヶ浜港駐車場。詳細は検討中。都観光部22年の観光客実態調査では、三宅島

島噴火災害も11年を経過した。このままでは東日本大震災などに埋もれて風化してしまう。経験豊かな人々も失われてゆく。今後、噴火前期、全島避難、帰島後の検証課題を、ホームページ等も活用して深めたい。

会長 佐藤就之

会長時評

噴火災害検証① 全島避難まで

情報錯綜で混乱



2000年噴火で噴煙を上げる雄山

2000年噴火で噴煙を上げる雄山。今日の姿である。原発安全神話や防災国家戦略を軽視してきたため

欠陥だらけの救済制度
現時点で三宅島噴火災害を被災者の立場から検証を行うことは決定的に

重要だと思ふ。日本は、東日本大震災の復旧と再生・復興の在り方をめぐって大きな政策までむかえようとして

全島避難までの記録

(平成20年2月発行・村の記録誌「概要版」参考)

2000年三宅村の動き

- 6/26 緊急火山情報第1、2号嚴重警戒
災害対策本部設置（災対本部）
- 6/27 都災害対策本部・現地本部設置
- 6/29 石原知事来島 都現地災対本部廃止
- 6/30 都・三宅村災対本部廃止
- 7/7 災対本部設置
- 7/8 災対本部廃止（10時）
山頂小規模噴火・火山灰噴出・山頂陥没（18時43分）
災対本部設置（19時30分・9日17時廃止）
- 7/14 山頂噴火・神着大量灰
- 7/17 小中高通常授業再開
- 8/29 児童生徒島外避難
都・国災対本部設置
- 8/30 泥流発生の恐れ
全島避難勧告・指示
- 8/31 全島避難勧告・指示解除（島外避難ないとチラシつくる）
- 9/1 都3日以内の島外避難が適当と決定
村長全島島外避難指示
（2, 3, 4日3日間で）

設置・廃止の繰り返し

に災害救済制度は欠陥だらけで生活・経済・社会全般に打撃を与えている。皆さんの検証提言を期待する。

第1回目は、2000

年噴火の発生から全島避難までの問題だ。

まず右の年表を見て思い出ししてもらいたい。三宅村は、噴火発生から翌日または1週間を待たずに災害対策本部を設置したり廃止したり繰り返してきた。連続大地震に島民もテレビの前で深夜も情報を求めた。体育館にも避難した。自然災害だといえどもひど過ぎた。これには、専門機関、

ガスの対応に問題

4年半（高濃度地区は現在も続いている）の長期全島避難を予測できれば大切なものの保存と、よりましな生活対策が出る。

専門家の人々の責任を上げざるをえない。火山、地震、気象関係者の意見もまとまらず、混乱に拍車をかけた。最終的には、何故火山ガスが放出しているのか原因の結論はないままである。

6月4日の日本経済新聞夕刊に「三宅村は避難の数カ月後、5年後に帰島するつもりで計画を立て準備を進めた」と平野村長の談話。

避難直前に郵便輸送が無料化した際、数十個の私物を島外に送った人もいると噂も聞いた。避難数カ月後に5年後に帰島計画、これは何だ！。2、3週間で帰島できると思っていた私たちと災害認識の差に驚愕する。

原因は「火山ガス情報の公開被災者との共有、有効な長・短期対策」に問題があったのか？。重大な検証課題である。

来たとの思いは強い。①火山ガス放出の認識欠如8月中旬、ガスを確認したが、何故か過去の経験に捉われて短期終息の思い込みがあった。長期化の可能性を島民に警告した行政、専門（機関）家やマスコミ報道の記憶もない。行政は、直前まで全島避難はしないとチラシまでつくった。

②情報は正しく行使されなかったか

7月22日に松戸で 鶴吉さんがチャリティーを

舞踊家の鶴吉さんが主催する東日本大震災の義援金を募るためのチャリティーイベント「がんばろう！日本」が、7月22日の17時30分より行われる。



鶴吉さん

場所は松戸駅西口から徒歩5分の松戸市民劇場。歌や新内など様々な出し物が披露される。この中で鶴吉さんは、新内の「酔月情話」で、立ち回りも披露する予定だ。

入場料は無料だが、来てくれた方に献金をしていただき、集まった義援金は、後日鶴吉さんらが直接、東北に渡しに行く。鶴吉さんは、「当日はチャリティーバザーも行われます。東北の復興のために舞台を楽しむとともに、温かい気持ちをお寄せください」とコメントした。

問い合わせは下記まで。
鶴吉プロダクション
TEL 03(5366)9533

長期間支援の必要性を痛感

DTPAメンバー 岩手を訪問



未だに瓦礫が散乱する大槌町

ここでは、敷地内に仮設住宅が建設されている状態だった。また佐賀からきた団体による地元料理の炊き出しや米軍基地からのクッキーやケーキの差し入れもされる。

ここでもDTPAのメンバーは、市内の体育館にある支援物資の仕分けを手伝わせてもらった。寝具のセットを作る仕事だったが、整理のされて

いた。そこから2時間ほど移動し陸中山田市と大槌町を訪れた。この両方の地域では、家の解体や道路等のインフラ整備が、未だに十分にできて居なかった。特に大槌町では、町全体にまだ海水のような匂いが立ち込めていて、未だに散乱している瓦礫の撤去で多くの自衛隊が作業していた。

物資仕分け手伝いを

翌29日には、遠野市の遠野まごころネットを訪れた。

ここでDTPAのメンバーは、市内の体育館にある支援物資の仕分けを手伝わせてもらった。寝具のセットを作る仕事だったが、整理のされて

本紙を編集するDTPAのメンバーは、5月末に東日本大震災の被災地岩手県を訪れた。避難所、ボランティアセンターへ赴き、現地の状態やニーズを確認する中で、今後長期間に渡る支援の必要性を痛感した。

メンバーは、28日に岩手県宮古市にある田老町を訪れた。この町には、高さ10mの堤防が整備されていたが、それをはるかに超える津波により町の大半が流されてしまっていた。その津波の威力を物語るように堤防も一部壊されていた。次に避難所のあるグリーンピア田老という施設を訪れた。ここでは、敷地内に仮設住宅が建設されている状態だった。また佐賀からきた団体による地元料理の炊き出しや米軍基地からのクッキーやケーキの差し入れもされる。

ここでもDTPAのメンバーは、市内の体育館にある支援物資の仕分けを手伝わせてもらった。寝具のセットを作る仕事だったが、整理のされて

震災義援金26万7千500円

ふるさとネット 寄せられた気持ちを都に

皆さまのご協力で5月31日現在、第一次分の東日本大震災への義援金は、26万7千500円となりました。

田金好様、田中良雄様、佐藤恵美子様、松尾駿一様、宮澤雅美様、荏原昭子様、小林紀江様、金子智様、竹野内崇宏様、城北中小工業振興協会様、佐藤就之様、笹井美奈子様、芳賀雅美様、小林舞様、有本香保子様、鈴木亜矢子様、草野絵里様、浅井美子様、糸井真由美様、板倉美紀子様、小杉夏実様、菱谷奈美様、曲戸千賀様、長嶋さゆり様、紀本彩花様、宮野亜希様、上原眸様、山中恵美子様、村井花様、栗原未帆様、佐藤宗ノ子様、高山歌織様、小島梨沙様、鈴木純代様、高橋麻紀様、舛井知穂様、真島彩子様、小川恵美様、木村舞様、全島民分は自治会で取り組み、4月12日にNHK窓口に募金した。

今回の訪問を通じ、本

当の支援とは、継続し復興に立ち会う視点の中で見出したニーズを、活動として行うことだと教えられた。(佐藤健哉)

【寄付者名】

佐藤鈴子様、高松信之様、坂本健様、吉田信行様、青谷知己様、田中鑑四郎様、平松尚志様、池

解ください。

玉城さんご逝去に寄せて 寺澤晴男
「ジナ叔父」を忘れない

2000年噴火後、三池集落の再生、そして高濃度地区にある家に帰ることを願い続けた玉城長之助さんが、今年3月に亡くなった。今号ではジナ叔父の愛称で親しまれた玉城さんに寄せる思いを、寺澤晴男さんに寄稿していただいた。

平成12年6月発生の噴火は、三宅島災害史の筆頭になってしまった。全島民島外避難という未曾有の出来事の中で、かつてのコミュニティは崩れ、人々は去り、離れ、散り、逝ってしまった。

「玉城長之助（ジナ叔父）」さん。高濃度地区・



ふるさとネットの会議で発言する玉城さん(中央・2006年)

三池を語る時、誰もが必ず口にするお名前だ。地区で象徴的存在だったあなたも、いまはただ、追悼で語るしかない。別離は人の世の常とはいへ、あなたのいない三池集落は力なく、むしように寂しい。千年の森は消え、かつて栄えた家並みの多くが主を失い、ただ空しさが漂う。南に広がる三池浜は、人々の生活の全てに関わってきた。万歩に余る真砂の潮騒は、かつての賑わいの響きじゃない。だがいまも、大自

ご寄付者名

(4月1日～5月31日)

森幸江様、M様、佐藤宗ノ子様、竹澤美穂子様、西林圭吾様、小曾スミ子様、渡部啓一様、吉田信行様、青谷知己様、田中鑛四郎様、平松尚志様、酒井和彦様、笹井廣知様、田中良雄様、佐藤恵美子様、高橋栄一様、坂下良子様、田中良様、笹井美奈子様、伊藤奈穂子様、荏原昭子様、草深均様、小林紀江様、荻野和子様、南海タイムズ社様、沖山鞠枝様、金子智様、鈴木節子様、竹野内崇宏様、吉田幸一様、城北中小工業振興協会様、小室美幸様、中村俊江様、阪神大震災1.17希望の灯り様、吉永和恵様、佐藤就之様

然は無限のエネルギーを秘め、時には激しくまた静かに、当たり前のよう
に平然と寄せては返す
日々だ。

③平成12年はミヤケここにあり。世界に健在ぶりを示す。全島民避難は嬉しくない火山史を

飾る。「火山の島」

この中にあなたは、い

つも必ずおられ、とても

大事な「考え」を示され

特に今回の火山ガス

で枯死した樹齢数百年の

三池浜の樹林の再生は、

住民が安全で安心して住

むために不可欠・絶対条

件だと説き続けられた。

遅まきながら試験植栽も

やがて始まる。

元の場所に懐かしい

顔ふれの方々十余世帯が

戻ったか。その中にあるものは、おしなへ。急つ

なたにおらねし 穂や

かさと笑顔と未来志向の

あなたの生き方と実績

を。私たちに決して忘

ない。これからも「ジナ

編集後記

玉城さんの訃報に接し、心より哀悼の念を表します。

島の自然は少しずつ戻ってきているように感じますが、その一方で消えてしまうものもあります。私たちは、これからも残されている課題に丁寧に向き合いたい、皆様を応援いたします。(DTPA一同)

叔父像」を語り継いでゆきたい。

玉城大先輩、どうぞ安らかに、そしてふるさと三池集落の再生と平安と繁栄を導き、いつも見守っていてください。

平成23年6月

寺澤晴男 合掌